

不登校の要因と傾向

取組の方向性

学校に行きたいけど行けない

学校に行きたくない

経済的困窮や家庭の養育環境が不登校につながる傾向がある

- ・経済的な厳しさ等から養育放任となり、学校へ行く環境が整わない

- ・保護者が過保護のため、ちょっとしたことで学校を欠席させる

友人関係の悩み、学業不振から不登校になる要因が高い

- ・友人と気まずくなり、仲直りできずにいるため、学校へ行きづらい

- ・進級や進学したクラスや学校になかなか馴染めない

- ・学校には行きたいが、部活動の上下関係が苦手で、考えると憂鬱になる

- ・勉強がわからなくなり、苦痛だ

個人の要因として不安や無気力の傾向が多く見られるが、他の要因と複合的に関連しており、本人や保護者も理由がはっきりしないことも多い

- ・人前に出ると過度に緊張して疲れる

- ・もともと人と関わるのが苦手な人に出会いたくない

- ・自分のやりたいことが見つからない

- ・学校よりネット・ゲームに興味がある

① ① ① ①
新しいよう登校が校生

② ② ② ②
目級学の・校な進にい学お支時ける切進れ

③ ③ ③ ③
生校学徒が校へ継にの続お学しけ習たる支児不援童登

④ ④ ④ ④
者教職員および支援

⑤ ⑤ ⑤ ⑤
支や教援関育の係支充機援実関セン体タ制

⑥ ⑥ ⑥ ⑥
援抱不登校児家庭童への徒支を

未然防止

学校に登校している状況

- ・児童生徒にとって居場所と感じられる安心安全な学校
- ・児童生徒が主体的に取り組む活動を通じ、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいける学校

魅力ある学校づくり【方向性①②③⑥】

【安心・安全な学級、学校づくり】

- ・学校経営に位置づけた生徒指導の実践
- ・いじめや暴力行為を許さない学級づくり
- ・中学入学後早い時期の仲間づくり合宿

【学ぶ意欲を育む学習指導の充実】

- ・「わかる授業」の実施、補充指導の充実
- ・体験活動を通じて、生き方や夢、目的意識を考える指導

【学力の定着・向上】

- ・基礎学力の定着
- ・「わかる授業」の実施（授業の質の向上）
- ・放課後等学習支援の充実

【特別活動の充実】

- ・学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事を通じた人間形成
- ・自然体験型学習による他者と協働する力の育成

【校種間連携】

- ・自己有用感を高める異学年交流活動の拡充
- ・校種間での情報共有（中1学級編成への小学校教員の参画等）

【地域連携の推進】

- ・地域と連携した特色ある教育活動の充実
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との一体的な取組の充実
- ・放課後学習支援の充実
- ・良好な親子関係を築くために「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用

支援者のスキルアップ【方向性④⑤】

【支援者の支援スキルの向上】

- ・S Cを活用した校内および教育支援センター等への研修
- ・教育支援センター連絡協議会

【教職員の人権意識の醸成】

- ・人権課題や開発的生徒指導に関する研修

未然防止段階における家庭への支援が弱い

- ・ S S W 等による情報収集の強化
- ・ 医療・福祉等関係機関との連携の強化
- ・ 専門家等と連携した個に応じた支援内容の検討・充実

魅力ある学校づくりの推進

初期対応

潜在期

- 不登校のリスクが潜在化している状況
- ・学業の不振
 - ・人との交流が苦手
 - ・情緒的混乱
 - ・厳しい家庭環境 など

初期

- 登校しづり等が見られる状況
- ・起床時間が遅くなる
 - ・朝だけ体調不良になる
 - ・不安に襲われている など

早期対応のための学校の体制強化【方向性①②④】

【不登校担当教員(者)の力量形成】

- ・全小中学校に不登校担当教員(者)として職務を位置づけ
- ・管理職と連携して力量形成の体制整備

【校務支援システムを用いた迅速な情報共有の強化】

- ・不登校担当教員(者)による情報の集約及び管理職への報告の徹底

チーム支援・切れ目のない支援の強化【方向性①②④】

【校内支援会の強化】

- ・個別支援シート、支援リストの活用
- ・学年間、校種間の情報共有と引継ぎの徹底
- ・一定学校規模が大きく不登校出現率が高い学校へSC・SSWの傾斜配置
- ・SC、SSWの資質向上
- ・少しでもリスクがある児童生徒への早期支援の実現（SC・SSWによる授業観察等）

学校全体の指導・支援体制の充実【方向性②③④⑤⑥】

【個に応じた継続的な支援】

- ・養護教諭の役割と保健室等の「居場所」の充実
- ・個別支援シートに基づく組織的かつ継続的な支援
- ・「不登校の予防・対応のために」の改訂と活用
- ・児童生徒支援加配教員の活用の充実

【教職員の資質向上】

- ・「不登校対策チーム」の訪問支援によるチーム支援の推進
- ・教職員研修（児童生徒理解、学級経営力向上等）の充実

【教職員の資質向上に関する内容】

- ・教員が学び合う仕組みの構築（「タテ持ち型」「教科間連携型」「タテ持ち・教科間連携型」）
- ・不登校担当教員スキルアップ研修等の実施
- ・若年教員等育成のためのメンター制の導入

【関係機関や家庭等との連携】

- ・教育支援センター等関係機関への確実なつなぎ
- ・家庭訪問、学習状況の把握、評価の工夫等継続的な関わり
- ・医療機関や専門機関等にスムーズにつながるよう福祉部局等と協議の場を直ちに設置

包括的な家庭支援【方向性⑤⑥】

- ・ S S W 等による情報収集の強化
- ・ 医療・福祉等関係機関との連携の強化
- ・ 専門家等と連携した個に応じた支援内容の検討・充実

社会的自立に向けた多様な学びの場の充実

自立支援

本格期

- 登校困難な状態が本格化している状況
- ・学校にほとんど行かない
 - ・昼夜逆転した生活
 - ・ネットやゲームに没頭
 - ・生活習慣が乱れる など

回復期

- 心身のエネルギーがたまり始めた状況
- ・親しい人と会話できる
 - ・暇や退屈を感じている
 - ・学校や社会への不安や恐怖もある など

始動期

- 外部とつながろうとする意欲を持ち始めた状態
- ・教育支援センターや別室登校ができる
 - ・「○○したい」という意見を言う など

個に応じた支援環境の充実【方向性③⑤】

【個に応じた継続的な支援】

- ・別室や保健室登校に対する体制と環境の整備
- ・青少年教育施設における野外体験を通じた支援

多様な教育機会の確保【方向性③⑤】

自立支援の強化

【教育支援センターの機能強化】

- ・教育支援センターをSC・SSWの活動拠点として、相談支援や家庭支援を強化
- ・学習支援の充実、教育支援センター未設置町村での新設、広域での受け入れを促進するため、教員OB（非常勤職員）を配置する補助事業を創設（週3日8h勤務）
- ・心の教育センターによる教育支援センターへの支援の強化

【夜間中学における受け入れ】

- ・学び直しの場として形式卒業者の受け入れ
- ・自主夜間中学の開設支援

【フリースクール等民間施設との関係構築】

- ・連絡協議会の実施

社会的自立への支援【方向性⑤⑥】

【若者サポートステーションでの支援】

- ・相談など就学・就労に向けた支援

保護者・家庭への支援の充実【方向性⑥】

【相談支援体制の拡充】

- ・心の教育センターの相談支援機能および体制の強化

【心理的不安の軽減】

- ・保護者のつどいの実施
- ・相談体制の強化

【不登校理解の促進】

- ・PTA、家庭への研修の実施